



入間市議会議員 2期目 活動レポート (令和-13)

無所属
無党派

世界初！女性から男性のトランスジェンダー議員

細田ともや

違いを認め合い 互いを尊重しあえる
“入間市”を目指すために！

～プロフィール～

- 平成3年 女性として生まれる。入間市立野田中学校卒業、私立埼玉平成高等学校卒業
- 帝京大学医療技術学部臨床検査学科卒業。大学在学中に、女性→男性に戸籍変更
- 臨床検査技師として病院勤務。2017年入間市議会議員選挙 最年少25歳 初当選
- 女性から男性へのトランスジェンダーの地方議員として **世界初** となった
- 2021年入間市議会議員選挙 現職最年少29歳2期目当選**
- 人権課題に取り組む他、毎議会 教育・福祉等の一般質問を行なっている
- 2020年6月 英国の非営利団体「One Young World」主催、**世界各地より「地域社会の若者に好影響を与える」年間最優秀政治家** 15人中に選ばれた
- 所属：総務常任委員会・議会防災検討委員会・入間市消防団・青年会議所

one
POLITICIAN
OF THE YEAR 2020
SHORTLIST



全国初！！ ヤングケアラー支援条例制定

入間市ヤングケアラー支援条例を制定し、令和4年7月1日から施行しました。

「ヤングケアラー」とは、法律上の定義はありませんが、家族にケアをする人がいる場合に、大人が担うようなケア責任の引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子どものことです。

ヤングケアラーが個人として尊重され、心身の健やかな成長および自立が図られるよう、早期に発見し、適切に支援していくために、ヤングケアラー支援条例を制定しました。



西武地区体育館



雨漏り対策・LED化



外壁の塗り替え



多目的トイレ設置



防災倉庫設置



トイレ改修



道路標識



Before
(標識の根元が風化し、倒れかけていました)



After②
(穴も綺麗に埋めてあります)



Before
(標識が倒れてしまっていました)



After①
(電柱に取付けて頂きました)



After②
(穴も綺麗に埋めてあります)

2021年7月から西武地区体育館の改修工事が開始され、12月24日に工事が完了しました。多目的トイレの新設・トイレの改修・雨漏り・照明のLED化・外壁の塗り替え等の改修工事が行われました。そして、本年2月には、防災倉庫も設置されました。新光地区の道路標識が危ない状態になっておりました。子ども達の通学路にもなっており危険なので、担当課に伝え、直して頂きました。

男性個室トイレに汚物入れの整備を

質問 1. がんサバイバーだけでなく、加齢等による尿漏れパッド、痔を患っておられる方もパッドを利用している。捨てる場所がなく困っておられる方々がいるが、男性トイレに汚物入れの設置はできないか？

答弁 1. 多くの市民が利用する市内公共施設の男性個室トイレへ、尿漏れ用パッドを捨てるための汚物入れを設置することは必要であると考えている。

今後は、本庁舎から設置を行い、他の施設についても順次設置を進めていく。

男性が尿漏れパッドやおむつを使用するケース

- 前立腺がんの術後や、脊椎の病気で排尿障害がある
- 治療や鎮痛のための座薬が下着に染み出る
- 頻尿の人が長時間の運転に備える



がん対策について

質問 1. がん検診の受診状況は？

- 第3次健康いるま21計画の目標ではがん検診の受診率の目標値は50%としているが、受診率をふまえて、どのように評価・分析しているのか？
- がん検診受診率の向上に向け、どのような対策を講じているのか？

答弁 1. 新型コロナウイルス感染症の影響によって、令和2年度は受診を控える方が多く受診率は低下したが、3年度は例年通りの受診状況に戻っている

- 当市の受診率は、おおむね県内平均値を上回っている状況にある。しかしながら、目標値を達成していない状況からは、がん検診の重要性について周知を図るなど、市民の健康意識を高めるための取り組みが必要であると考えている。
- さらなる受診率の向上を図るため、精度の高い検診の導入や、「がん検診受診率50%達成に向けた集中キャンペーン月間」に併せて、啓発コーナーの設置、SNSによる情報発信等、市民の健康意識を高める取り組みを検討していく。



赤ちゃんを亡くした家族への支援について

子育て支援が充実する一方で、厚生労働省によると、年間2万人近くのお子さんが流産・死産で亡くなっている。流産や死産を経験した女性が適切なケアを受けられずにいる現状がある。

質問 1. 周産期グリーフケアについてどのように認識されているのか？

- 死産・流産でお子さんを失った悲しみに対する社会の理解は、十分ではない。相談窓口、課題についての現状は？
- 周産期グリーフケア体制の構築が必要と考えるが、今後の取り組みは？
- 亡くなった赤ちゃんとお家族について、その存在、支援の必要性、社会にある偏見の解消を、入間市が日常的にあらゆる啓発の取組を行うことも重要だと考える。今後、チラシ等を配置できないか？



答弁 1. 市としても、周産期グリーフケアの必要な方への支援については、その重要性を認識し、適切に対応していかなければならないと考えている。

- 子育て世代包括支援センターにおいて、保健師、助産師等の専門職が妊産婦さんからの相談に対応し、個別に支援を行っている。悲しみに直面している辛い時期に相談されることは少ない。そうした辛い時期に相談されることが少ないという状況を踏まえると、そうした時にこそ相談がしやすい場所、体制があるということの周知が必要と考えている。
- 職員の育成やスキルアップを図ると共に、医療機関等と連携を密にし、当事者に寄り添った相談支援体制に取り組んでいく。
- 子育て世代包括支援センター事業や産婦健康診査事業、相談窓口等の利用について周知を図る。チラシ等を作成し公共施設などへの配置についても検討していく。

無所属の会発行

http://h-tomoya.com



〒358-0055 入間市新光306-888

☎ 080-8739-3649

こちらのチラシはUDフォントを使用しています。

掲載・出演メディア

細田智也

検索

NYタイムズ・The Independent(イギリス)

NBCニュース

読売・朝日・毎日・産経・東京・埼玉各地方新聞等

AERA・Wikipedia等

NHK(おはよう日本・首都圏ネットワーク)

討議資料